

〔優 秀 賞〕 認知症を早期発見する「MCIスクリーニング検査」



代表取締役社長
内田 和彦 氏

株式会社MCBI

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学産学リエゾン共同研究センター

TEL. 029 (855) 5071

<http://mcbi.jp/>

【産学官連携特別賞】

筑波大学 名誉教授 朝田 隆 氏

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

「MCIスクリーニング検査」は、血液検査によって認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）の兆候を早期に発見するサービス。血液中のアポリポタンパク質（ApoA1）、トランスサイレチン（TTR）、補体第3成分（C3）という3種類のタンパク質の量を測定し、MCIのリスクを判定する。最近もの忘れが激しい、性格が変化したなどMCIの疑いがある場合に、早期に有効な治療を開始することにより、認知症の発症予防につながる。



MCBIは筑波大学発バイオベンチャー。測定対象である三つのタンパク質は本来、アルツハイマー型認知症の原因とされるアミロイドβペプチドの蓄積を弱める働きをする。同社は筑波大など3カ所での観察研究（コホート研究）を通じて、血液中のこれらのタンパク質の量が認知機能の低下に伴って減少することを明らかにした。この成果をもとに、2015年4月に事業化したのが「MCIスクリーニング検査」だ。

統計解析により独自作成した判別式にタンパク質の測定値を代入することで、MCIなのかどうかやその程度をA～Dの4段階で判定する。受診者は採血（7 ml）を受けるだけで、約2週間で結果が分かる。医師は検査結果に応じて予防指導を行う。健常高齢者とMCIの判別精度は約80%。契約医療機関は1500件を超え、これまで約9200人の検査実績がある。

同社によると、血液検査によってMCIのリスクを把握する手法を確立したのは世界的にも例がないという。日本、欧米、アジア主要国で特許出願中。今後、認知症予防、生活習慣病改善に関するプログラムの提供を予定している。